

「おかあさんはね」エイミー・クラウド・ローゼンタール 作

飯沼小1年 郡司 莞甫

この本は、おかあさんにおこられた人とか、けんかをしちゃった人によんでほしいです。どうしてかという、この本をよむとおかあさんはこんなふうにおもっているんだな、おかあさんがいてよかったなとおもえるからです。よむとうれしい気持ちになって、おかあさんがあたまにおもいうかびます。

ぼくは、おかあさんにおこられたときや、けんかをしたとき、おかあさんはぼくのことをきれいなのかとおもいます。それから、ぼくはこわくおこられるのに、いもうとはやさしくおこられるから、そういうときもおかあさんはぼくのことをきれいなんだな、いもうとのほうがすきなんだなとおもいます。いもうとはずるいなとおもいます。だけど、この本をよむとおかあさんとなかなかおもしろい感じがします。ぼくのこと、きれいなじゃなくてすきなんだとおもって、ほっとした気持ちになります。いやだなとおもっていたいもうともなかよくなれます。

この本のおもしろいところは、おかあさんがいろんなところにおねがいごとをしているところです。かぜやそらにもおねがいごとをしています。ぼくが学校にいつているとき、おかあさんはたくさん、いろんなところにおねがいごとをしているんだなとおもいました。なんだかおもしろいなとおもいました。

それから、ぼくがいるときにはおねがいごとをしないのに、ぼくがいないときだけおねがいごとをするのがふしぎだなとおもいました。だけどおかあさんは、ぼくがおとなになっておとうさんになってからこの本をよめば、そのふしぎがわかるよといいました。はやくおとなになってよんでみたいなとおもいました。

ぼくのように、おかあさんにおこられたり、けんかしたりして、おかあさんのことがきれいになった人やかなしい気持ちになった人にぜひこの本をよんでほしいです。ぼくみたいになかなかおもしろい感じができるとおもいます。かなしい気持ちがなくなるとうれしくなるから、いろんな人によんでほしいです。

#### 講評

おかあさんの色々なお願い事を知ることができてよかったですね。みんなにも嬉しくなるとほしいという気持ちが伝わってきます。

「火曜日のごちそうはヒキガエル」ラッセル・E.エリクソン 作

飯沼小2年 嶋田 圭

ぼくは、パパとみなさんにおすすめしたい本があります。その本は、姉の八さいの誕生日にママが買ってあげたもので、二人とも気に入っていました。ぼくも気に入っています。まだ、読んでいないパパやみなさんにも読んでみてほしい本です。

それは『火曜日のごちそうはヒキガエル』という本です。火曜日はミミズクのジョージのたん生日で、その日のためにごちそうとしてジョージがつかまえてきたのが、ヒキガエルのウォートンです。

二ひきの会話やようすに、ぼくはハラハラしたり、あたたかい気持ちになったりしました。友だちなんかひつようない、と言っていたジョージの気持ちが、かわるのかな、かわるといいな、と思いながら読みました。

たん生日まではあと六日です。

ジョージが出かけている間、ウォートンにはにげ出す方ほうを考えますが、ジョージのおうちは木の高いところにあるので、かんたんにはにげられません。

ジョージが帰ってくると、二ひきはいろいろ話してすごしました。ジョージが、かりのことや、空からながめている時のことを話すと、ウォートンは、む中で聞きました。ウォートンが兄弟との話をしてわらうと、はじめてジョージもわらっていました。今まで友だちがいなくて名前がひつようなかったミミズクにジョージと名前をつけたのもこの時です。

夜にはお茶をのみながら、もっと話をしました。ウォートンは自分たちが友だちのように感じる時もありました。

でも、火曜日の前の夜はおたがいだまったまま、ついに火曜日がきてしまいました。

ウォートンがあきらめて、ジョージがいつ帰ってくるかと思っていた時、知り合いのネズミがあなを作ったすけにきてくれました。ぼくはウォートンがにげられて安心しました。でもジョージのことを考えるとさびしいような気もしました。

そして、いよいよジョージのおうちからどんどんはなれていくと中、きつねにかまれているジョージを見つけてしまいます。ウォートンはたすけたい気持ちになります。さてどうするでしょう？

『火曜日のごちそうはヒキガエル』はハラハラしたり、あたたかい気持ちになったりしながらむ中で読みました。みなさんも、ウォートンとジョージの六日間を、二ひきがどうなるかドキドキしながら読んでみてください。

#### 講評

「ウォートンはジョージを助けるのか。友だちとは何か。」読んでみたくなりました。ストーリーも上手にまとめられています。